

好美さんは、美術の時間に、心ひかれた美術作品の鑑賞文を書くことになり、次の【葛飾北斎「神奈川沖浪裏」】を選び、作品から受けた印象を【付せん】に書きました。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【葛飾北斎「神奈川沖浪裏」】



【付せん】

生き物のようにうねる巨大な波が目飛び込んできて、迫力がある。

くだけ散る真っ白な波の間から、富士山を見ているような気になる。

(注)・葛飾北斎は江戸時代の浮世絵師。浮世絵は江戸時代に流行した風俗画。

・「神奈川沖浪裏」は「富嶽三十六景」(富士山をそれが見える各名所から描いた浮世絵連作)のうちのひとつ。

1 好美さんは、【付せん】のように感じた根拠を次の【ノート】にまとめました。【ノート】の【a】から【d】に当てはまる言葉を、【付せん】からそれぞれ抜き出して書きなさい。

【ノート】

根拠となる表現	
構図	対象や素材
画面手前に【a】と、中央に小さく【b】が描かれている。	飲み込まれそうな船と、控えめに【b】が描かれている。
色彩(色の使い方)	音
海には深い青が、波頭と富士山には【c】が使われ、明暗がはっきりと描かれている。	ザッパーンと、【d】波の音が聞こえる。

a	b	c
d		

問題について

「書くこと」根拠を明確にして書く問題
(浮世絵の鑑賞文を書く)

鑑賞文を書くときには、ただ「よかった」「感動した」「すばらしかった」という言葉を並べるだけではなく、どこが、なぜいいのかということをも具体的に書くことが大切です。その際、「印象」や「構成」「対象や素材」「色彩」「音」などの観点を決め、「この作品のこういうところからこんな魅力を感じた。」というように、根拠を明確にして書くようにしましょう。

○ 解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○ 解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

解答



18

1 a 巨大な波（うねる巨大な波、波も可）

b 富士山

c 白（真っ白も可）

d くだけ散る

2 (例) どっしりとして動かない（姿）

* 同様の内容が書けていればよい。

3 (例) この絵の迫力は、

画面手前に巨大な波を、遠くに小さく富士山を描いた構図と、それを強調する色彩にある。二つを対比することによって空間的な広がりを感じさせ、巨大な波に引きつけられた視線は、延長線上にある富士山に導かれる。
(九十九字)

* 同様の内容が書けていればよい。

* 構図、色彩など、波と富士山との「対比」に触れ、第四段落の内容（富

士山の存在）に続く内容になっていること。